

カンボジア国

プノンペン都総合都市交通管理能力 強化プロジェクト

業務の背景

プノンペン都市圏では JICA の支援の下、2035 年を目標年次とする総合都市交通マスタープラン（PPUTMP）の策定、バスの供与、バス運営に係る技術協力、信号機の設置等の様々な交通にまつわる支援がされてきた。しかし PPUTMP で提案された新たな都市交通システムの導入は、PPUTMP が未承認である等を理由に一部の現地機関の同意が得られず、実現には至っていない。

一方で近年、郊外部を中心に交通インフラ整備と大規模都市開発が進んでおり、また新空港の建設が郊外で進んでおり、都市圏がプノンペン都を超えて拡大している。また Grab などの配車サービスの普及、3 輪タクシーの急増によるさらなる幹線道路の速度低下や路線バスとの競合など、新たな交通問題が生じている。

これらの問題に対処するため、2024 年 7 月から 3 年間の本プロジェクトが進行中である。

業務概要

プノンペン都における都市交通に係る総合的な計画・管理能力が強化されることをプロジェクト目標とし、3 つの成果のもと業務を行っている。

成果 1：関係機関を横断した議論・検討・合意形成のプロセスを踏まえ、PPUTMP を改定

PPUTMP の策定以降の環境の変化（郊外の都市化や新空港の建設）を考慮した、都市交通マスタープランの改定を行う。また改定した都市交通マスタープランで提案する軌道系などの大規模プロジェクトについては、予算確保のスキーム等について関係機関と調整・合意を得る。

成果 2：パイロット事業の実践を通じた、関係機関横断的なプロジェクトの実施能力向上

公共交通のサービス水準向上に向けて、①バス優先信号、②配車サービスの一部エリアのサービス制限の 2 つのパイロットプロジェクトの実施を予定している。①はバスの運行速度が落ちるエリアを選定し、交通の流れが良くなるよう信号のサイクルを調整する。②は、路線バスは一定距離以上の移動、配車サービスはバス停までの短距離移動と役割を分類し、バス路線上での配車サービスの乗降車を制限する。

成果 3：公共交通の管理・運営に関する組織体制が強化される

バス公社が運行する路線バスは政治的な理由で無料の乗客が多く、多額の補助金を受けており、健全な財務状況とは言えない。しかし法制度上バス公社は公債発行や借入ができないため、バス優先レーンの導入などサービス水準向上のための対策が難しい。これらの財務健全性と現行法制度を考慮し、他国の事例を参考にしながら、短期・中長期の公共交通管理・運営主体について現実的な選択肢を検討する。



メコン川対岸の都市開発地域を結ぶ車載フェリー



現地の路線バス



現地大学で開催したセミナーの集合写真

インターンシップ研修内容

各プロジェクトの進捗状況や参加希望者のスキル等を考慮して決定する予定ですが、現段階では以下のような業務が想定されます。

- 既存の政策や計画関連資料の収集及び分析
- 交通調査結果や統計資料の解析
- パイロットプロジェクトの評価指標の検討
- クライアントや委託先、現地スタッフとの会議への出席
- インターンシップ業務の概要や業務を通して得た気づきについて社内会議で発表

対象者

土木計画学あるいは交通計画、交通工学、都市計画、情報工学、空間解析、データサイエンス等の分野に知見のある学生

実施時期

7月～9月頃の2～3週間程度。希望に合わせて時期は柔軟に設定可能 ※応相談

募集人数

若干名